

# 第4章

## 全体のまとめ

# 1. 格差拡大を容認しても大丈夫なのか

## 「格差の何が悪い」の真意

小泉首相・・・経済効率のために不平等が増えてもやむをえない

「成功者をねたんだり、能力のある者の足を引っ張ったりする風潮を慎まないと、社会は発展しない」

## 経済効率のためには格差拡大はやむをえないのか

・「効率性と公平性のトレードオフ」

→格差の拡大を容認しなければ、経済効率を高めることはできない

・「収穫逦減の法則」

→ある要素を高めるほど、その期待できる効果は逦減する

公平性を犠牲にすることが必ずしも効率性を高めるとはいえない

## 2. 貧困者の増大がもたらす矛盾

### 貧困者の増大は社会にとってもマイナス

#### 1. 経済効率

日本経済の活性化にマイナス

#### 3. 犯罪の増加

劣等感から人を憎み、嫉妬を感じる  
→犯罪が増え、社会を不安定に

#### 2. 人的資材のロス

貧困者が失業者であれば、人材を有効に活用していないといえる

#### 4. 社会の負担の増加

貧困者増→経済援助負担も増

#### 5. 倫理的問題

高所得者と低所得者の共存

→いじめが社会的に定着するおそれ

## アメリカ社会における犯罪と災害のリスク

- ゲートタウン: 富裕者だけの町  
1970~80年代 犯罪率増  
原因: 貧富格差の拡大  
→壁に囲まれたコミュニティを作った

- ゲッター: 貧困者の住むエリア

- ハリケーン「カトリーナ」2005.8

- ・富裕層 車で避難
- ・貧困層 避難できず多数の死者

→貧富の格差拡大がもたらす生命の危険

## 健康格差という新しい問題

貧困者は早死にし、お金持ちは長生き

- 食事の安全性への配慮
- 受けられる医療のレベル

アメリカ: 自己責任の社会

→問題視する声が少ない

# 3. ニート・フリーターのゆくえ

## ニートの現状

学校にも行かず、職にも就いていない若者  
10年で20万人増加

\* 10年以上前から無業の若者が相当数存在

・社会の中で顕在化した結果、  
社会問題として認識されるように

\* 30歳前後の壮年のニートの増加

・ニートのうちの半数が25～34歳  
・ニートから抜け出せないまま  
年を取ってしまっている

## 200万人超のフリーター

### フリーターの定義

厚労省...自ら希望して正社員にならない人  
内閣府...正社員でない人

(家事手伝い・求職中含む)

### 多くの者はやむを得ずフリーターに

・学歴の低い人たちがフリーターになる可能性高い

・フリーターの多くは正社員を希望

→一度フリーターになると

フルタイムへの転換は難しい

・労働コスト削減

・勤労意欲・仕事の熟練度 低くみられる

# フリーターを続けた場合の生涯賃金

正規労働者 2億791万円

非正規労働者 1億426万円

→正社員の生涯賃金の半分しかない

# フリーターとニートの将来

フリーター:所得が少ない → 一般的なライフスタイル難しい

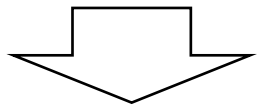
ニート :親が死んだら貧困層へ

# 4. 階層の固定化と人的資源の危機

## 格差拡大と階層の固定化

### 格差拡大の容認

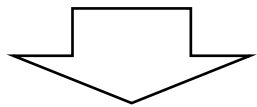
→競争を活性化させ、経済効率を上げる



不平等化の進行

親の階層を子が受け継ぐ

階層の固定化へ



競争の活性化が逆に抑えられてしまう

階層の固定化をどう考えるか

政治家:二世・三世議員多い

親の後援者・人脈・地盤を受け継ぐ

→能力が測りにくいため、無能な政治家でも自然淘汰されない

マイナス点

国民にとって人的資源の活用

危機的状況を引き起こされる可能性

階層の固定化・・・国家の将来にかかわる大きな問題

# 5. 格差をどこまで認めるのか

## 格差は必ず存在する

格差がゼロの社会

→世の中にはあり得ない

- ・有能な人 ⇔ そうでない人
- ・頑張る人 ⇔ 怠ける人
- ・健康な人 ⇔ 生まれつきハンデのある人  
能力、性格、健康...

どこまで格差を容認するか？

→個人の考え方、価値判断に作用される

## 格差に対する二つの考え方

### ● 格差の上層と下層の差

- ・どこまで差を縮めればよいか  
or 縮める必要がないのか
- ・貧困者の存在は容認

### ● 下層が全員貧困でなくなるためには

- ・上層と下層の差の存在を認める
- ・貧困者ゼロの世界を想定



# 有能な人が報われる社会

→文化・技術・経済の発展に貢献

(例)アメリカ

社長の年収:一般社員の100倍超

有能な人・頑張った人には高い報酬

- ・勝者と敗者→敗者をどう扱うか
- ・機会の平等が与えられていない人多い

どこまで格差を認めるか

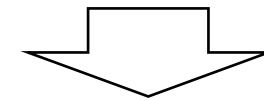
→国民の判断(選挙のテーマ)

# 格差と企業の生産性

(例)トヨタの社長の所得

- ・アメリカの社長より相当低い
- ・一般社員との格差小さい

トヨタ:非常に効率の良い生産性



社長と一般社員の所得格差

→小さいほうがよいのでは?